

第3回宇宙開発利用大賞について

平成30年3月30日

宇宙開発戦略推進事務局

1. 第3回宇宙開発利用大賞の概要

- ◆ 昨年10～12月に公募。選考委員会における審査・議論を経て、最終的に各府省等において大臣賞等を決定。
- ◆ 3月20日に宇宙シンポジウムの一環として表彰式を開催し、安倍総理をはじめ、各大臣等から表彰状等を授与。また、会場ロビーではパネルや関連品を展示。

公募（10/2～12/11）

選考（予備選考、採点）

内閣総理大臣賞等の決定

表彰式（3/20）

第3回宇宙開発利用大賞の特徴

- 革新的アイデアを評価（審査基準改定）
- 農林水産大臣賞の創設

選考委員会 委員名簿

委員長	柴崎 亮介	東京大学 空間情報科学研究センター 教授
	遠藤 典子	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授
	久貝 卓	日本商工会議所 常務理事
	神武 直彦	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授
	篠原 ともえ	アーティスト・デザイナー
	土田 誠行	株式会社 産業革新機構 専務取締役
	山崎 直子	宇宙飛行士

内閣府、総務省、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛省、宇宙航空研究開発機構の委員

2. 受賞案件一覧

賞名	事例名	受賞者名
内閣総理大臣賞	ほどよしプロジェクトによる超小型衛星産業化・国際連携への貢献	東京大学大学院 工学系研究科 教授 中須賀 真一
内閣府特命担当大臣 (宇宙政策) 賞	宇宙の視点から、命を守る～GPSとスマホの山岳地帯での活用～	株式会社ヤマップ 代表取締役 春山 慶彦
総務大臣賞	宇宙天気予報システムの開発・運用と社会への貢献	国立研究開発法人 情報通信研究機構
外務大臣賞	国際連合と連携した宇宙能力構築のための留学生事業	国立大学法人 九州工業大学
文部科学大臣賞	無重力による筋萎縮に有効な機能性宇宙食の開発	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 生体栄養学分野 教授 二川 健
農林水産大臣賞	衛星情報を利用したブランド米の生産支援	(地独) 青森県産業技術センター 農林総合研究所 生産環境部長 境谷 栄二
経済産業大臣賞	超小型衛星群による毎日全地球観測インフラ「AxelGlobe」の構築	株式会社アクセルスペース
国土交通大臣賞	みちびき対応多周波マルチGNSS高精度受信機及びIMUの開発	マゼランシステムズジャパン株式会社
環境大臣賞	沿岸域生態系保全のための広域な藻場・干潟分布状況の把握	三洋テクノマリン株式会社 東北支社 課長 北野 慎容
宇宙航空研究開発機構 理事長賞	膜展開式軌道離脱装置の開発および宇宙実証	株式会社 中島田鉄工所

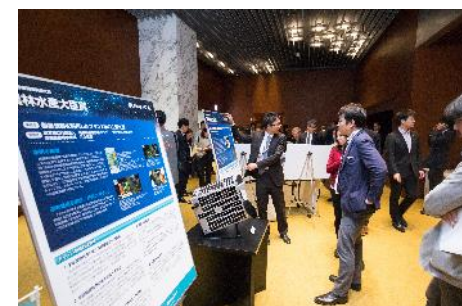
※ 防衛大臣賞は「該当なし」

3. 宇宙シンポジウム①

- ◆ 3月20日にイイノホールにて、宇宙ビジネスに関するパネルディスカッションや第3回宇宙開発利用大賞表彰式、S-Matching発足式等で構成する、「宇宙シンポジウム」を開催。
- ◆ 表彰式に出席した安倍総理は、宇宙ベンチャー育成のため、新たな支援パッケージを発表。

シンポジウムセッション（1）

- 14:00-14:05 （開会・主催者挨拶）
- ・ 高田 修三（内閣府 宇宙開発戦略推進事務局長）
- 14:05-14:20 （基調講演）「宇宙産業のパラダイムチェンジ」
- ・ 高橋 進（宇宙政策委員会 宇宙産業振興小委員会座長、日本総合研究所理事長、経済財政諮問会議議員）
- 14:20-15:05 （パネルディスカッション）
「宇宙ビジネスの創出・育成に必要なこととは？」
- <パネリスト>
- ・ 岡島 礼奈（株式会社ALE 代表取締役社長）
 - ・ 岡田 光信（アストロスケール 創業者兼CEO）
 - ・ 小正 瑞季（リアルテックファンド 業務執行役グロースマネージャー）
 - ・ 袴田 武史（株式会社ispace 代表取締役 & ファウンダー）
 - ・ 松本 紋子（S-Booster 2017大賞受賞者）
- <モデレーター>
- ・ 石田 真康（A.T.カーニー株式会社 プリンシパル）
- 15:05-15:30 （S-NET活動紹介）「S-NETを通じた新事業創出の取組」
1. 今年度のS-NETの取組と来年度の展望
 2. S-NET発宇宙ビジネスの事例紹介



4. 宇宙シンポジウム②

第3回宇宙開発利用大賞 表彰式

- 15:45-16:30
- ・ 各大臣賞等授与
 - ・ 安倍内閣総理大臣スピーチ
 - ・ 記念撮影



投資マッチングプラットフォーム（S-Matching）発足式

16:30-16:35 世耕経済産業大臣挨拶

16:35-16:40 記念撮影



シンポジウムセッション（2）

17:00-17:45 「宇宙開発利用の拡大に向けた展望 ～宇宙開発利用大賞から得られた気付き～」

＜パネリスト（第3回宇宙開発利用大賞 選考委員）＞

- ・ 遠藤 典子（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特任教授）
- ・ 神武 直彦（慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授）
- ・ 篠原 ともえ（アーティスト・デザイナー）
- ・ 土田 誠行（株式会社 産業革新機構 専務取締役）
- ・ 山崎 直子（宇宙飛行士）

※ 久貝委員（日本商工会議所 常務理事）は御欠席

＜モデレーター（第3回宇宙開発利用大賞 選考委員長）＞

- ・ 柴崎 亮介（東京大学 空間情報科学研究センター 教授）



5. 宇宙開発利用大賞の効果と要望①（過去の受賞者へのアンケート結果から）

◆ 宇宙開発利用大賞の制度改善に向け、過去の受賞者に対してアンケートを実施。

1. 受賞の効果

• プロジェクトの継続・発展

- 国際標準化活動の継続や産学官連携研究に発展。
- 衛星データ利用のためのウェブサイトが立ち上がり、大きなシステムへと展開。
- 漁業界での衛星データ利用が常識となり、漁船漁業者にとってなくてはならないものに。

• ビジネスの引き合いが増加、事業規模が拡大

- 多くの引き合いがあり、製品ラインナップも拡充。シェア的にも成長トレンド。一步進めた次世代開発も推進。
- 海外からの問い合わせも多く、近い将来、海外展開にも期待。
- 社内での認知度向上により、幅広い分野のお客様への提案のきっかけに。

• 世間での認知度の上昇

- 新聞、テレビ等のメディアで取り上げられる機会や問い合わせが増加
- 受賞案件に関する一般の方々の理解度の向上に貢献
- 研究費の申請時に実績としてアピール

• 政府関連予算の拡充

- 平成30年度予算で、受賞に関連する後継センサーの研究開発予算を計上。
- 衛星利用の有効性が証明され、関係省庁が利用拡大のための新規予算計上に結び付いた。

6. 宇宙開発利用大賞の効果と要望② (過去の受賞者へのアンケート結果から)

2. 受賞者からの要望

<受賞後のサポート>

- 政府関連予算の紹介、シンポジウム等でのプレゼン機会

- ローンチまでに時間を要する宇宙プロジェクトの、継続に向けた社内説得のための後押しに。
- 継続的な実利用のための関連予算の手当。

- 企業とのマッチング

- 宇宙開発利用大賞事務局のコネクションの活用
- 地方の宇宙関連企業、衛星や宇宙機に搭載される装置を製作する海外メーカへの紹介

- 観測の空白期間が生じないよう、政府による継続的な衛星打上げの実施

<宇宙開発利用大賞について>

- 宇宙開発利用大賞自体をより一般の方に広めてほしい

- 開催時期

- 月を決めた定期的な開催 (毎年、隔年、3年毎に) 、地方開催